

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立南丹高等学校 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	2年生 学校設定科目「スポーツサイエンス」選択者 22名
3 展開の形式	学校における活動 教科名（ スポーツサイエンス ）
4 目標 (ねらい)	<p>①コミュニケーション 感謝と勇気を伝えるスポーツ・コミュニケーションに挑戦する。 ～スポーツがもつ伝える力を養う～</p> <p>②共生 さまざまな人と共に楽しむアダプテッドスポーツを考案する。 ～オリジナルアダプテッドスポーツを理解する～</p> <p>③ビジネス 新たなビジネスアイデアを考案し 提案する。 ～スポーツ×エンターテインメント・エデュテインメント・地域について理解をする～</p> <p>④社会課題解決 スポーツを活用して、社会をよりよくするアイデアを考案する。 ～競技団体と協働するアイデアを考案する～</p> <p>⑤グローバリズム 私が考える『スポーツがもつ力』 という題で、考えを述べる。 ～1000字の小論文～</p>
5 取組内容	<p>スポーツサイエンスの授業において、アスリートについての探究授業をおこなっている。</p> <p>【 概要 】</p> <p>①プロスポーツアスリートが伝える「感謝・勇気」とそのふるまいから学ぶ生徒がめざす社会で自己実現するために不可欠なスポーツ・コミュニケーションスキル</p> <p>②共生社会におけるスポーツの価値をとらえ、オリジナルアダプテッドスポーツの実施に向けて、すべきことを選択・判断し、取組を工夫しながら、自身にとっての「スポーツがもつ共生社会を実現する力」を認知する力</p> <p>③社会におけるスポーツのビジネス価値をとらえ、自身たちなり</p>

	<p>のスポーツビジネスアイデアのプレゼンに向けて、重要なこと検討・吟味し、必要なことを判断・改善しながら自身にとっての「スポーツがもつ社会に与える影響力と可能性」を認知する力</p> <p>④自己実現したい社会・未来のための課題解決の価値をとらえ、協働した課題解決のために必要なことを選択・判断し、企画を練り上げ、自身にとっての「スポーツが未来を創造する力」を認知する力</p> <p>⑤さまざまな課題解決に取り組むアスリートの姿勢・事例にSDGs 達成への取組を学び、スポーツに取り組む者として、持続可能な未来社会のためにどんなアイデアが考えられるか自分なりの考えを構築する。</p>
6 主な成果	<p>ビックイベントであるオリンピック・パラリンピックが行われた年であり、自身が行っている競技以外への興味関心が高い状態で授業が行えた。特にボランティアの活躍や社会問題への問題提起等、競技以外での行動も大きく報道され、スポーツが社会問題解決の糸口になるという認識も持てたように考える。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>オープンエンドな問が多くあり、納得解を出すために、ICT 機器を使い情報収集を行うこと、自身が求める理想の社会を考えの軸とすること、自身の考えや答えの共有をする学び合うことを授業展開の基軸とした。</p>
8 主な課題等	<p>答えのない問に対して、多くの情報を与え自身の知識や考えと結びつけて納得解を出し、他者が理解できるように表現をするということを繰り返し行った。ICT 機器を使い情報を収集する能力、情報を正確に把握する能力、表現力が大きな課題であった。</p> <p>講演を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の状況により実施できなかった。オンラインでの実施も考えたが、対面式の講演に比べて効果が期待できないと考えて実施しなかった。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>講演会に変わるものがあることができれば実施したいと考える。</p>